

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	徐 偉家 (じょ いか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	感性認知情報システム分野 松居研究室 修士2年
発表年月 または事業開催年月	2026年 3月2日
発表学会・大会 または事業名・開催場所	先進的学習科学と工学研究会 (ALST) 106回
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	徐 偉家 松居 辰則
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	チャットボットの感情粒度とタスク適合性がユーザー信頼度に与える影響 -Prompt と RAG を用いた感情出力制御-
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>概要・成果：</p> <p>本発表では、LLM ベースのチャットボットにおける感情表出がユーザーの信頼に与える影響について検討した。特に、タスク文脈と感情の整合性、および感情粒度の違いに着目し、VAD に基づく Conditional RAG を用いて感情表現を制御した応答を作成し、オンライン実験により比較を行った。その結果、文脈に適合した感情表出は不一致条件や中立条件よりも高い信頼につながることを示された。一方で、感情粒度が高ければ常に望ましいとは限らず、失敗場面では過度に精緻な感情表出がかえって信頼を下げる可能性も示唆された。以上より、チャットボット設計においては、感情の有無だけでなく、文脈との整合性や感情表現の細かさを調整することの重要性が示された。</p>	

※無断転載禁止